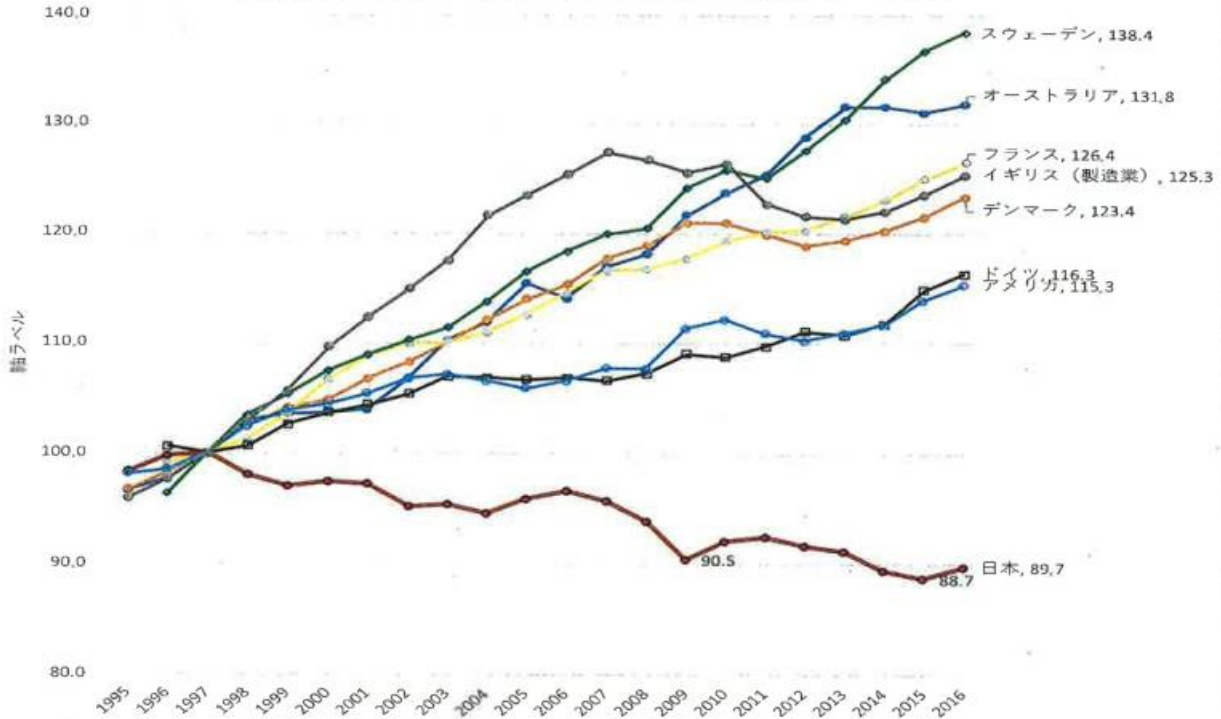


資料1

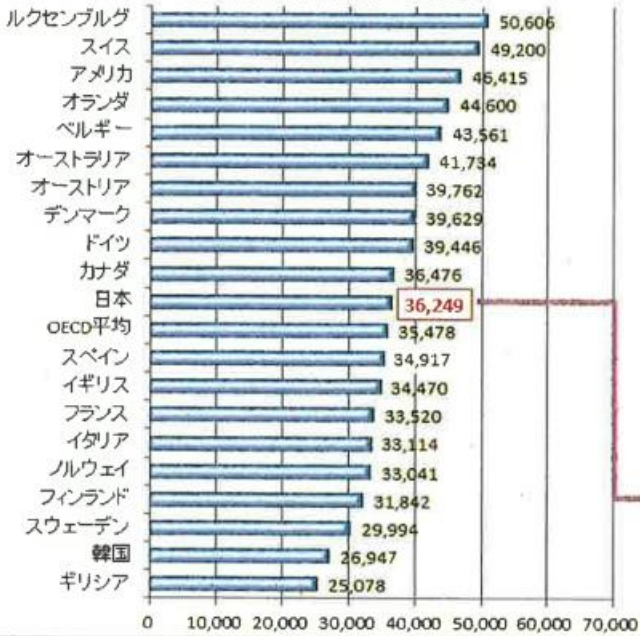
実質賃金指数の推移の国際比較 (1997年 = 100)



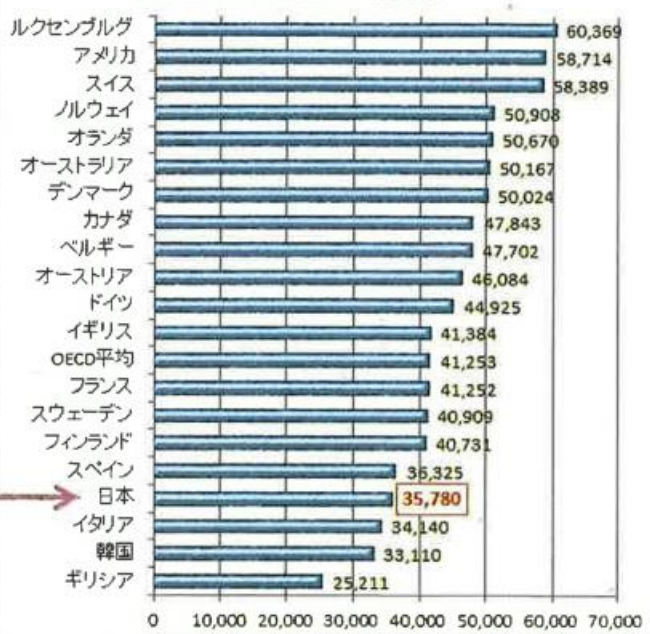
出典: oecd.statより全労連が作成 (日本のデータは毎月勤労統計調査によるもの)。
 注: 民間産業の時間当たり賃金 (一時金・時間外手当含む) を消費者物価指数でデフレートした。オーストラリアは2013年以降、第2・四半期と第4・四半期のデータの単純平均値。仏と独の2016年データは第1~第3・四半期の単純平均値。英は製造業のデータのみ。

資料2

フルタイム就労の賃金年収推計 1997年
(消費購買力平価換算: US\$表示)



2015年
(消費購買力平価換算: US\$表示)



注1: OECD統計より作成。各国国民経済計算における公務・民間全産業の労働者の賃金年収をフルタイム換算労働者数で割り、2015年の消費購買力平価で比較しUS\$表示した。
 注2: 賃金年収には一般労働者の賃金・手当・賞与(税・社会保険料本人負担含む)のほか役員報酬等も含まれる。社会保険料の使用者負担分は含まない。



「安いニッポン
価格」が示す停滞
中藤 玲

「年収1400万円は
低所得」の真実

日経で話題の記事が新書に！

- ◆ ディズニーもダイソーも世界で最安値水準
- ◆ 日本の初任給はスイスの3分の1
- ◆ 実質賃金は20年以上伸びず…

日経プレミアシリーズ 



9784532264536



1921233008504

ISBN978-4-532-26453-6
C1233 ¥850E

定価 本体850円+税

発行 ● 日経BP
日本経済新聞出版本部

発売 ● 日経BPマーケティング

日 本のデイズニールランドの入園料は実は世界で最安値水準、港区の年平均所得1200万円はサンフランシスコでは「低所得」に当たる……いっつか物価も給与も「安い国」となりつつある日本。30年間の停滞から脱却する糸口はどこにあるのか。掲載と同時にSNSで爆発的な話題を呼んだ日本経済新聞記事をベースに、担当記者が取材を重ね書き下ろした、渾身の新書版。

ニセコの居酒屋のラーメンはなぜ3000円？

——今、この日本で起きていること

- ◆ 「#無限くら寿司」背景に客単価
- ◆ 外国のビッグマックが高く感じられる理由
- ◆ スタバのラテ、「高い」6割
- ◆ 「安い」ことは歓迎すべきことが
- ◆ 海外人材を取り込むメルカリ
- ◆ ニセコの地価上昇率、日本トップクラスの背景
- ◆ 崩れる日本のお家芸「アニメ」
- ◆ コロナ後に日本の安さは変わるのか？

平均年収も低い？

